

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の核持ち込みに関する 「密約」に係る調査の関連文書No.3

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込み問題, 東郷次官, ホドソン米国大使 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43865

100

次官室
 官房長
 21-件の局長
 2部の内
 1号
 機密
 無期限
 アメリカ局長
 安保課長
 1949.11.15
 核問題に関する東郷次官とキドソン米大使
 との会談要旨
 山崎アメル
 11月15日午後、東郷次官とキドソン米大使
 の車両を求めて会談し、その要旨次の
 通り（安川駐米大使、山崎アメル局長同席）。

1. 東郷次官より、オード大統領来自の陣の田中
 総理との会談について、同総理より別添ペーパー
 のラインで核問題に関する日本政府の立場を述べ
 られることになると思ふので、事前に知らせしたい。
 ペーパーのボイントは最後の部分であるが、概要
 に「今や安保費約1億円は日本側の信頼回復
 (接戦者の日本への持込み問題)の疑問は」
 のクレディビリティしかかる重大な問題となって
 いる。日本政府としては米国とのアドバイスを得る
 軍事的抑止力を維持する必要性を十分考慮

GA-6

外務省

1. ~~オード大統領~~ 東郷次官を解決の方針を探
 実現するため、大統領へおかれども、東郷次官の
 重要性を認識しておいて顶きたい、といつてお
 あると述べた。
 2. これに対し、キドソン大使は、(1) 現下の政
 治情勢について、東郷次官の解決につき、日本
 の政治指導者がニアチアをとり、且つ、リスク
 を取る用意ありや。(2) また総理発言の
 題旨は東郷次官の重要性に寄るオード大統
 領の理解を求める。今后、日本側で東郷次官
 (日米側の方針検討の結果を待つ)

検討があることあると思うが、対外表明振りを
 如何にすべきかと問うた。これに対し、
 東郷次官は (1) このまま事態を放置する。
 日本の信頼回復の崩壊を招くリスクがある

外務省

(2) 現段階でアート大統領大不満が highly sensitiveであることを理解

して頂ければ十分である、外部に対する発表としては、インカントル夏解のライフル等

い、「大統領は日本国民の核に対する特殊な感情を理解不充分し、安倍晋三の上場で協議の内容を尊重する」ということ

を想うと答えた。

次に

3. ホドソン大使は、東京では、田中アート会談では取り上げず、木村一キシンゴー会談

で取り上げられたと予想している。この問題を如何に study し、事実を defuse のか

が問題であるとコメントしたところに、本件は

半側面アート・田中会談で取り上げてある

れくさんといかない限り取り上げられるものと了解しているが、また、今後の study が

「explore」は秘密裡に行われるものと了解しているかと伺うので、専仰次元

より、いずれお尋ねと答えた。

4. 次に2. 専仰次元より日本ペーパーへ

~~上記大統領の方の話の報道とは別の問題である~~
又機材の運搬ではなく、両者の存在につれての下述

ways and means について、日本側が検討

しているのは 特込み (introduction) の定義

(1) 核搭載船の航行

を明確にして、通過 (passage) を含め、一時

停泊 (temporary visit) には時間的制約

を設ける。(2) 航空機の通過や一時

着陸は認めない。(3) ポラリス導弾署核搭

載船は停泊や通過を考慮しない。

(4) ~~領海内の~~ 濱習は認められない。

5

(ホ) 通過又は一泊香港中の船舶が核発射
するときは事前協議の内容とする。(ヘ) 事故

地位協定上

の際の補償につき、海事賠償は半回復による
ことであるが、~~賠償が承認されるまで~~、これにつき
有限責任
~~（半回復下限のまで）~~

外交と海上の領地を踏む等との特長である
と説明した。

更に以上の実質(内閣のほか)

5. 是れ平仰次直より、特セミの
再定期を行ふ場合、最もよろしいのは、

過去のことといかに説明するかという点で
あり、この点については日本側で十分協議

する必要があると述べ、キドソン大使は、日
本側の意図は了解したので、平建東側政府

へ伝達すると述べ、今後予定された。

CONFIDENTIAL

49.11.15 年份
次年度大便全議會資料
次年度大便二部
米同級 1 部
季刊局 1 部

The Government of Japan will continue to firmly maintain the Treaty as a cornerstone of the friendly and cooperative relations between Japan and the United States. The Treaty does not only contribute to the security of Japan, but plays an important role in keeping international peace and security in the Far East. Mutual trust and confidence is essential in maintaining Japan-U.S. security relations on a firm basis.

The nuclear question is a highly sensitive problem in Japan, because of the unique experience with the atomic bombs, and because it had developed in the early post-war days into a highly political issue of the "American" nuclear weaponry.

Against this background, an understanding was reached in the negotiation for the revision of the Security Treaty in 1960 that the introduction of nuclear weapons into Japan will be subject to prior consultations between the two Governments.

Since then, the United States has taken the position which gives full consideration to the special sentiment of the Japanese people on this issue.

While the attention at the time of the negotiation in 1960 was focused almost exclusively on the question of the placement of strategic nuclear weapons in Japan, subsequent

- 2 -

developments in tactical nuclear weaponry brought about a considerable change in the situation. The Three Non-Nuclear Principles have in the meantime taken firmer root in Japan. Under such circumstances, the recent remarks by Admiral La Rocque made the so-called "question of the introduction of nuclear weapons" a major political issue in Japan.

The position of the two Governments on this question has been consistent in that the United States never reveals the presence or non-presence of nuclear weapons, and that the introduction of nuclear weapons is subject to prior consultation. The Government of Japan has maintained that such weapons have never been introduced into Japan because prior consultations, prerequisite to any such introduction, have never taken place. The question, however, has now become a serious issue bearing upon the credibility of the Security Treaty and even of the ties of mutual trust between the two countries.

The Japanese Government is examining possible ways and means to meet the problem while giving due consideration to the need to maintain the United States military deterrent in Asia. It is urged that the President on his part appreciates the seriousness of the matter.